

# 尾向

OMUKAI

山の暮らしが  
今も息づく



## 地区の概要

尾向地区は人口約 430 名で、椎葉村内では上椎葉、松尾に次いで3番目に人口の多い地区です。耳川源流域に位置する山深い地域で、交通アクセスは良くないものの、日本で唯一継承されている焼畑や狩猟、神楽など、椎葉村の中でも特に伝統文化が色濃く残っています。



## 地区の未来像

未来に残したい日本の原風景



## 作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「尾向みらい会議」を2回行いました。その後、役員会や青年部、神楽保存会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。



## プロジェクト

# 01 渓谷祭りを活かした 帰省プロジェクト

概要

渓谷祭りについて、これまでは朝は川で釣り、昼はプールで魚の掴み取り、夜はステージイベントを行なっている。今後はこれまで以上に交流を促すようなイベントを企画し実施する。また、PRについても力をいれていく。

目的

渓谷祭りの実施日に帰省してきた人たちとの繋がりをつくりたい。

実施体制



## プロジェクト

# 02 尾向神楽 魅力発信プロジェクト

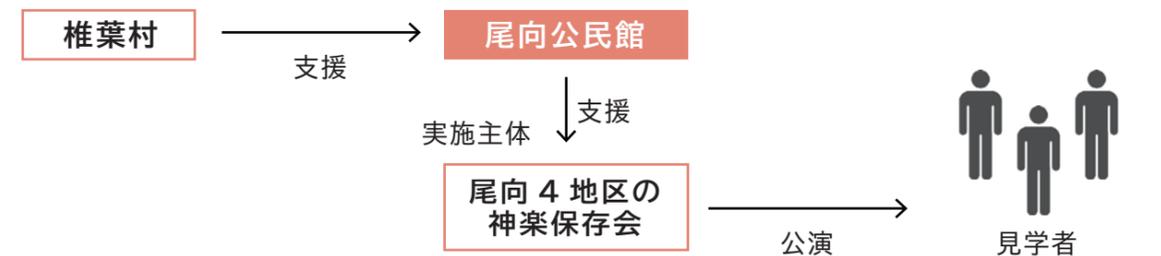
概要

村外からの見学者を増やすために情報発信を強化する。また、村外での神楽公演を行政や観光協会と連携して受付け、実施していく。

目的

様々な人の前で舞うことで、若手のモチベーションを高めたい。

実施体制



# 03 楽しくわいわい！ 春夏秋冬尾向堪能ツアー

概要

青年団（現役・OBOG）主催で毎年4回（春夏秋冬）、尾向地区の各所で子供と若者を中心に、自然等を活かしたイベント・ツアーを行い、皆で交流しながらわいわいする会を行う。（アルコールあり）

2022年には主催者の体制づくりとイベントの具体的な計画づくりをする。2023年には実際にイベントを実施する。2024年以降は修正を加えながら継続する。

【想定内容】

- 春・・・魚釣りや花見
- 夏・・・アウトドアや花火
- 秋・・・栗拾いや紅葉狩り
- 冬・・・お菓子作りや天体観測

目的

- ・地域内で楽しみたい。
- ・UIターンのきっかけにしたい。

実施体制



メモ

# 地域住民の声

若い頃、椎葉を離れて都会に住んだこともありましたが、心と「自分がどこに根を張り、人生を終えていきたいか」と考えたときに辿り着いた答えは、椎葉に帰ることでした。

椎葉には、豊かな自然はもちろん、暮らしの営みの中で神に感謝し、伝統や文化を重んじて人々が支え合うといった日本の昔ながらの精神が今なお生活の中に息づいており、尾向の暮らしにも色濃く残っています。今では貴重ともいえるそんな暮らしや先人の知恵も、私たちが守らなければいつしか消え去り、一度消えれば二度と戻らないものです。椎葉が「普通の田舎」になってしまう前の、今が分岐点だと感じています。

尾向は、そんな古き良き日本人の本来の在り方を体現する場所であり、その魅力を発信していくべき場所だという使命感を持って、プロジェクトを進めていきたいです。



館長の想い  
尾前賢了（おまえけんりょう）



尾前正樹（おまえまさき）

幼い頃から「大人になったら椎葉に帰ってきて、地元の役に立ちたい」という思いがあり、大学を卒業後は椎葉にUターンして、椎葉村役場に勤務しています。

地域での活動として、2021年に開館した尾向交流拠点施設 irori のInstagramを開設し、地区の出来事や人、自然の魅力を精力的に発信しています。観光などで尾向を訪れる人に向けてはもちろんですが、地元出身者に「今の尾向」を届けたいという思いから始めました。今まで地元を離れた人と繋がりを持つ手段が少なかったので、SNSを有効活用して尾向を身近に感じてもらいたいと思っています。

また、今回打ち出したプロジェクトの一つは、尾向青年会主催で春夏秋冬のイベントを企画するというものです。子どもや若い世代を中心に村内外から広く参加者を受け入れてカジュアルに交流できる場を作ること、自分たち自身ももっとこの地で暮らすことを楽しみたい。そうすれば自ずと、地区の魅力に自信を持って発信していくことにつながると考えています。それが結果としてUIターンのきっかけになれば嬉しいです。

尾向交流拠点施設 irori のInstagramはこちら ▶

